

廃棄農産物を使って特産品をつくり、地域を活性化する

高粱高等学校 社会問題研究部

活動の目的

自分たちの地元である高粱について知り、高粱を市内外の多くの人に知ってもらうために情報を発信することで、高粱の他にはない町並みや魅力を知ってもらうことを目的としている。

活動の中で明治大学の小林先生のお話を聞く機会があり、その中で高粱には城下町ならではの地形や建築物があることを知った。実際に生活している私たちでさえ知らないことが多くあり、その魅力が市内外の方に知られていないことも知った。そこで、高粱の特産品を使ったバスソルトを製作し、幅広い年代の方に手に取ってもらえる商品を開発することを目的とし、活動した。

また、学校内だけでなく、実際に地域の方と交流することで新たな発見や地域特有の問題の解決を目指し、地域貢献などの探究活動を通して、自分たちが成長することを目的としている。

活動の内容及び経過

私たちの地元である高粱市の魅力を高粱市内外の方に知ってもらうことを目的とし活動した。主な活動として、昨年度に引き続き高粱市の特産品である、ぶどう、柚子、地紅茶（高粱紅茶）を使ったバスソルトの製造・販売を目標に活動を行った。バスソルトに使用した農産物は、高粱市内の農家の方から傷があり商品として出荷できないものなどを無償で譲っていただき、商品化に向けて農産物を細かく裁断し、乾燥させたものを食品微生物センターに使用しても身体に影響がないとの昨年度末に検査結果を得ている。これにより、今年度は扶桑化学株式会社に製作を委託し、学校祭や地域イベントなどで販売を行った。さらに、私たちと同じように高校生で地域探求や商品開発を行っている立命館宇治高校を訪問し、お互いの取り組みを発表するなどの交流を行った。

活動の成果・効果

活動を通して、高粱市民や私たちでさえ今まで知らなかった高粱市の魅力を改めて知ることができた。バスソルトに高粱市内の農家の方から譲っていただいた農産物を使用し、野菜や果物を生産する際に発生する廃棄を減らし食品廃棄率の減少や自給自足に貢献することができた。正確には、ぶどうを約6キロ、柚子約3キロ分の廃棄物を減少させた。昨年度達成できなかった製作・販売まで行うことができ、最後まで諦めずやり抜くことで達成感を得た。また、立命館宇治高校と交流を行い、様々な地域との交流を通して課題の共有をすることができた。製作委託先と商品化に向けて



高粱市で開催されたイベントで販売

何度もオンライン会議で交渉を行い、幾度の試作をした経験から企業との連携の難しさを学んだ。また、主力である3年生が引退までに製作まで行えたが、販売は1年生が行うこととなった。本取り組みを通して、スケジュール感の大切さ難しさなどを改めて学び、私たち自身のスキルアップにも繋がった。

今後の課題と問題点

今回のバスソルト販売によって農産物の廃棄量を一時的に減らすことはできたが、バスソルト製作を継続しない限り大きな削減とはならず、根本的な解決にはならないと感じた。バスソルトのパッケージは、デザインの関係から多くの文章や写真を取り入れることが難しく、バスソルト販売のみでは高粱市に興味を持ってもらえるきっかけにはなるが、高粱市の魅力や町並みなどを十分に伝えることができなかった。商品製作を企業委託するにあたり、委託先が距離的に遠かったため、農産物や試作品を送るために時間を要したり、納得の行く商品ができるまで何度も試作を繰り返したりしたこと、学業と活動の両立が難しかったため、当初の予定よりも完成が遅くなってしまったのは今後の課題となった。

- 代表者：池畑陽介 ●所在地：高粱市内山下
- TEL：0866-22-3047 ●E-MAIL：takako.shakenbu@gmail.com
- URL：https://www.takahasi.okayama-c.ed.jp/wp/
- 設立年：2021年 ●メンバー数：10名